

# YSWのこと、もっと知りたい

Q どこで、どのような業務をしているのですか？

A 主に都立高校で、生徒との面談や、教員へのコンサルテーション、就労・福祉などに関する各種関係機関の情報提供等を通じて、不登校や中途退学の未然防止に向けた支援に携わっています。

Q 勤務先は都内全域ですか？

A 都内全域の都立学校が対象となりますが、お住まいの住所地を可能な限り考慮して勤務先を決定します。

Q YSWはどのような資格を有していますか？

A キャリアコンサルタントや産業カウンセラー等の就労支援系の資格や、社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師等の福祉支援系の資格を有するYSWがいます。

Q 経験が少なくても活躍できますか？

A 幅広い分野の専門家から研修や助言（スーパービジョン）を受け、スキルアップすることができます。

## ● 初任者研修

YSWの基礎を習得します。

(例) 生徒の相談対応における工夫・学校理解・  
関係機関との連携

## ● 課題別研修

個別の課題に対する理解を深め、支援に必要な  
スキルを習得します。

(例) 児童虐待防止・スクールソーシャルワーク・外国にルーツを持つ生徒の支援

## ● スーパービジョン

専門家に個別に助言を受けることができます。

(例) 発達心理・奨学金・法律問題



さらに詳しく知りたい方は…

東京都 YSW



おわりに

このパンフレットの表紙では、出口がたくさんある迷路を描いています。YSWは、生徒の抱える困難を受け止め、個々の最善のゴールに寄り添っていく、繊細ながらもやりがいに溢れた仕事です。

編集・発行 〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課

電話：03-5320-6874 メールアドレス：S9000027@section.metro.tokyo.jp

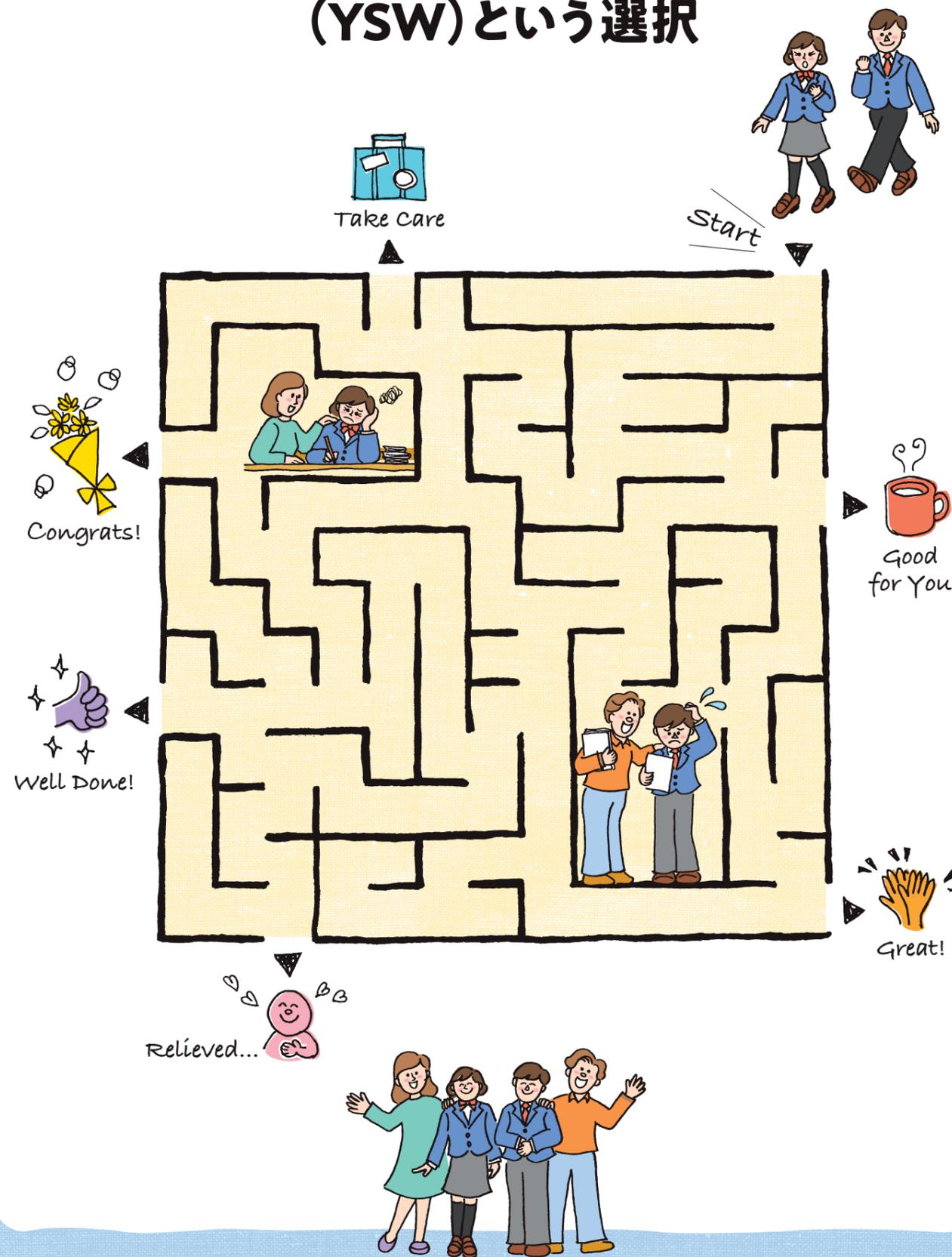
デザイン 株式会社 文伸

※本パンフレットの一部文章は、生成AIを活用して作成しています。

若者の声に、いちばん近くで気づける存在になる。

# ユースソーシャルワーカー

(YSW)という選択



話せる誰かが  
いるだけで、  
救われることがある。

Youth  
Social  
Worker



## ユースソーシャルワーカーは “支援のきっかけをつくる”存在です。

「学校に行きづらい」「続けるのが苦しい」—そんな思いを抱える若者がいます。  
その背景には、家庭の事情や心身の健康など、さまざまな要因が関係していることがあります。

ユースソーシャルワーカー (YSW) は、若者の声に耳を傾け、  
悩みが深くなる前に支えとなる存在です。

誰かの“きっかけ”になりたい。そんなあなたの思いが、未来を変える力になります。

若者の生活の  
困りごとに寄り添い、  
自立を支える。



## 主に都立高校で関係機関と連携しながら、 支援の輪を広げていきます。

YSWは主に都立高校で、生徒との対話を通じて不安や悩みを把握し、  
教員や、福祉・医療・就労支援などの関係機関と連携しながら、支援の輪を広げていきます。

さらに、校内を巡回して「ちょっと話せる人」として関わったり、  
生徒が安心して過ごせる居場所をつくったりすることも、大切な役割です。

生徒が抱える悩みにいち早く気づき、本人の気持ちに寄り添いながら、必要な支援につなげていく—  
そんなYSWの関わりが、学校生活の継続や、未来への一歩につながっていきます。

# “分からない”を“分かってくれる人”

## —YSWの関わり

生徒が抱える不安や悩みは、一人ひとり違います。

「誰にも話せない」「どうしたらいいか分からない」—そんな思いに寄り添いながら、

YSWはじっくり話を聞き、生徒自身の気持ちを整理するお手伝いをします。

学校だけでは対応が難しい課題にも、YSWが関係機関と連携しながら、

一緒に解決への道を探っていきます。

CASE 1

### “未定”の背景にある声を聴いて —進路に悩む生徒と、伴走しながら見つけた答え

BEFORE

進路指導部の担当教員が、年度当初に3年生に進路調査を実施したところ、「未定」と回答する生徒や、用紙を提出しない生徒が多数いたことから、YSWに相談がありました。



AFTER

YSWが進路未決定者に対しガイダンスや面談を実施したところ、意思が決まっていなかったのではなく、自分が考えている進路に自信がない場合も多いことが分かりました。

そこで、個別の面談を繰り返しながら、生徒本人の自己理解を進め、自分に合う就職先などの進路を見つけていきました。また、並行して面接練習を実施し、就職試験などに備えました。

その結果、YSWが支援した就労希望の生徒全員の就職先が決定しました。



CASE 2

### 進学を壁を越えて —夢をあきらめない力を支える

BEFORE

校内を巡回していたYSWが、一人でいる生徒に声をかけたところ、進路について悩んでいることが分かりました。後日面談したところ、「大学に進学したいが、生活保護を受けており、学費のことをはじめ、どうしたらいいか分からない」と話がありました。



AFTER

YSWは、生活保護のケースワーカーと連携し、家庭状況の**アセスメント**を行いました。また、生徒が進学できるよう条件を整え、学業とアルバイトの両立を目指すことを生徒に提案しました。

生徒は**進路の目標が設定されたこと**で、学業やアルバイトに励むようになりました。

YSWは面談を継続し、学校生活の不安軽減に努めています。



# “話せてよかった”を支える人たち

## —YSWのまなざしと、日々の関わり

不安や悩みを抱えた生徒が、ふと「話せてよかった」と感じる瞬間。

その背景には、日々の対話を重ねながら、信頼を築いていくYSWの存在があります。

YSWは何を考え、どのような思いで生徒と向き合っているのか。

その実践の様子をご紹介します。

### 生徒の“今”を守り “未来”を育てる仕事です。

Mさん(6年目)

#### PROFILE

都内の大学院を卒業後、YSWとして働きながら社会福祉士の資格を取得。不登校や中途退学の経験のある生徒が目標を見つけチャレンジする「チャレンジスクール」等、多様なタイプの都立高校での勤務を経験。



#### ～ある勤務校での1日～

- 10:30 派遣校へ出勤
- 10:40 面談予定の確認
- 11:00 先生と打合せ
- 12:00 生徒と面談(1件)
- 13:00 休憩、昼食
- 14:00 生徒と面談(2件)
- 15:00 先生と打合せ
- 15:30 校内の相談委員会に出席
- 16:30 生徒と面談(1件)
- 17:30 業務の記録作成
- 19:15 退勤

- Q この仕事を選んだ理由を教えてください。
- A 学生時代、教育学を通じて「子供の貧困」について学ぶ中で、学校での支援体制の構築に携わりたいと考え、YSWを志望しました。
- Q やりがいを感じるのはどんな時ですか？
- A 家庭環境など、先生方だけでは解決が難しい課題の解決に携わることができたときです。生徒との対話を繰り返す中で、ちょっとした変化にも気付きやすくなりました。教室に入ることができなかった生徒が入れるようになった時は、本当に嬉しかったです。
- Q これから一緒に働きたい人へ、ひとことお願いします！
- A 充実した研修やOJTがありますので、これからソーシャルワーカーとして活躍したい方には良い職場だと思います。一緒に相談しながら生徒の悩みを解決していきましょう！

### 学校を生徒の 居場所にするために。

Iさん(10年目)

#### PROFILE

私立の通信制高校で講師や副担任を経験した後、若者支援のNPO法人を経て、YSWへ入職。明るく親しみやすい人柄が生徒から慕われている。



#### ～ある勤務校での1日～

- 8:00 派遣校へ出勤
- 8:10 生徒に昇降口で挨拶・声かけ
- 8:30 カフェの開所準備
- 9:00 生徒と一緒に行事の準備
- 11:30 休憩、昼食
- 12:30 カフェに来た生徒の対応
- 15:00 スタッフと打合せ
- 16:45 退勤



- Q いま、力を入れて取り組んでいることについて教えてください。
- A これまでは生徒との個別面談を中心に活動してきましたが、相談することにハードルを感じる生徒もあり、YSWとつながった時には抱える問題が深刻化していることも数多くありました。そこで、生徒が休み時間や放課後にふらっと立ち寄り、不安や悩みを話せる「校内居場所カフェ」を学校に立ち上げ、地域の大学生や元教員のボランティアスタッフの方々と一緒に運営しています。
- Q 実際に校内居場所カフェを運営してみて、どう感じますか？
- A 生徒の日常生活に入り込み関係を築いていくには、繊細なコミュニケーション力が必要です。生徒の目線に立って話し、ゆったり過ごせる空間を作りながら関係を築いています。カフェで話す中で、ふと悩みを話してくれて、先生方と一緒に支援することができた生徒もいて、立ち上げて良かったと感じます。